

## 2020年度 年次報告書（アニュアルレポート）



公益社団法人 こどものホスピスプロジェクト

公益社団法人 こどものホスピスプロジェクト  
〒538-0035 大阪市鶴見区浜1丁目1-77  
あそび創造広場 TSURUMI こどもホスピス  
TEL 06-6991-9135 FAX 06-6991-9136  
Email: [info@childrenshospice.jp](mailto:info@childrenshospice.jp)  
<http://www.childrenshospice.jp>

公益社団法人 こどものホスピスプロジェクト：TSURUMI こどもホスピス

<はじめに...2020年度の重点として>

TSURUMI こどもホスピス(TCH)は、生命を脅かす病気（LTC: Life-threatening Conditions）とともに生きる子どもとその家族が、そして、私たち地域社会の一人ひとりが、生命の尊厳について考え、子どもが大事にされる地域社会をつくらうと願い、地域における小児緩和ケアを実践する場の一つです。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大による様々な影響や制約を受ける1年でしたが、そういった中でも5年目のホスピスの歩みを止めず、様々な取り組みを進めてまいりました。

①コロナ禍におけるホスピスケアの深まりと広がり

コロナ禍のLTCの子どもたちが、入院中の面会や外出・外泊の制限を強く受ける中、ホスピスの利用を必要とする子どもたちへのケアが止まらないようにホスピスの衛生管理の強化やオンラインプログラムの開発、安全な受け入れ環境の整備など様々な形でパーソナル利用を継続してきました。また、原っぱのあるあそび創造広場は、地域の人々の憩いの場として多くの方がご利用されました。

TCH2020 at a glance ～2020年度のTSURUMI こどもホスピスの1年

2020年 4月	5月	6月	7月	8月
<p>ちょっぴり静かに 2020年春がスタート！</p>   <p>明日もあなたが大好きです。 ～LOVIN' YOU DAY</p>  <p>デイユースで好きなことをいっぱい！</p>	 <p>やっぱり楽しい、ファミリーでお泊り</p>	 <p>夏が来たね！ 水あそびだよね！</p>	 <p>オンラインで 子どもたちと遊ぶ！ ボランティアと語らう！</p>	

2020年度年次報告書（2020年4月1日～2021年3月31日）

②つながりからの支援、新たな層からの支援など、多様なファンデレイジング活動の展開

イベント中止などのチャリティ活動の制約を受け年度当初危ぶまれた財政面でしたが、多くの方からの温かいご支援、ネット展開によるファンデレイジング活動により、計画以上のご支援をいただくことができました。誠に有難うございました。

③中期ビジョン「未来計画」を策定、次のフェーズへ

開設から5年を迎え、この5年間のホスピスの様々な取り組みやコロナ禍で様々な活動の見直しを行ない、次5年の中期ビジョン「TCH 未来計画」構想を策定しました。「みんな知っているこどもホスピス」を目指し、2021年度以降の取り組みの準備を進めております。



世界水準の子どもホスピスとして

- 友として関わる (Friendship)
- 病院ではなく家である (Home from home)
- 地域に根差した自発的な活動 (Local Initiative)
- 寄付による慈善活動である (Free standing)

9月

10月

11月

12月

2021年1月

2月

3月



原っぱは、虫たちのワンダーランド

初のクラウドファンディングで  
寄付集め！目標達成、ありがとう！

目標達成！！  
ありがとうLIVE配信

高橋 さん  
入江 さん  
山本 さん

クラウドファンディング  
寄付とアクション

ご寄付をありがとうございます！  
皆様のご支援のおかげで、目標達成することができました。本当にありがとうございます。

クラウドファンディングで集めたご寄付は、  
ホスピスの運営に活用させていただきます。

次年度は、ご寄付いただいた方から、  
お礼のメッセージを送らせていただきます。

次年度は、ご寄付いただいた方から、  
お礼のメッセージを送らせていただきます。

次年度は、ご寄付いただいた方から、  
お礼のメッセージを送らせていただきます。

0202/03/09 (日) 14:00-14:45



今年はメンバーのみの  
雪遊びだったけど、楽しい！



今年もアドベンチャー  
ワールドの動物と会えた！  
ハウスで！お家から！



幼児フレンズで、友達できた！  
Youtube LIVE配信も、みんなで頑張りました！

YouTube子ども向け 生配信

みんな、きいて。  
つるみのこと

ホスピスを利用してきた小学生のmochiちゃんとスタッフが、  
ホスピスの遊びやオアシスポイントを紹介します！

2021年2月21日(日) 14:00-14:45

## 1・子どもホスピスケアの取り組みとして

(公益目的事業 1-(1)：対象児と家族のためのホスピスケア事業)

はじめに...TSURUMI こどもホスピスには、以下のような特徴があります。

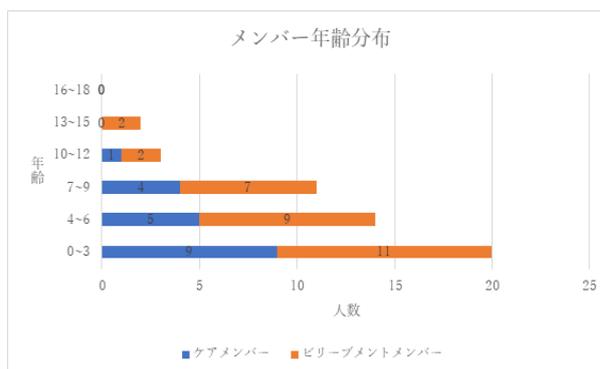
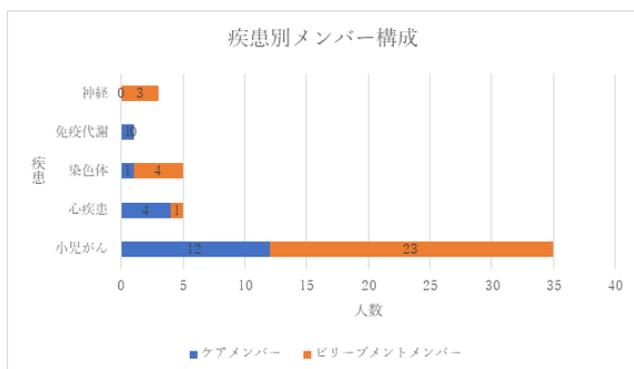
- ・ LTC(Life Threatening condition：生命を脅かされた状態)の子ども「今を生きる」「成長と発達」を大事に、社会で享受できないことが多い子どもと家族（保護者、きょうだい）を優先し、医療と連携しながら連続性のある、地域で支える小児緩和ケアを進めています。
- ・ 子どもと一緒に遊んだり、ご家族に寄り添う看護師、保育士、理学療法士のスタッフが常駐して、子どもたちの時間づくりをしています。イベント時には、ボランティアや地域の支援者と協働しながら、子どもの多様な体験の機会を創り出そうとしています。利用内容は子どもや家族と相談しながら決めていきます。
- ・ 子どもが亡くなった後もご遺族が、「子どもとの記憶と思い出がある場所としてあり続ける」ことをピリープメントケアの一つとしています。
- ・ TCH は、鶴見緑地公園内に立地し（時間や場所を限定しながら）広場や施設の一部を「あそび創造広場」として開放。様々なプログラムを地域と協働しながら実施しています。状況によっては、メンバーの子どもも参加し、地域住民と分かち合える地域交流の場になっています。

### 1) 募集（広報）& エントリー

①2020 年度のメンバーエントリーに関して（疾患別、年齢分布など）

	2019 年度	2020 年度	補足
継続メンバー	40 世帯	40 世帯	
新規メンバー	14 世帯	10 世帯	
当年度利用メンバー	58 世帯	50 世帯	うち遺族 31 世帯含む
当年度終了メンバー	14 世帯	12 世帯	うち新規 2 世帯含む
プロジェクトメンバー	4 世帯	—	プロジェクト実施なし
次年度への更新メンバー	40 世帯	38 世帯	(ケア 7、ピリープメント 31)

※2019 年度報告の更新メンバーが 41 世帯と記載しましたが、カウント時期の誤差が生じたため、上記のように修正します。



②コロナ禍における医療機関との連携

コロナ以前は、入院治療を受けている LTC の子どもが、早期からホスピスの利用をスタートできるよう、病院への広報や医療者との対話を重ねてきました。しかし、コロナの影響は LTC の子どもたちが治療を受ける病院にも大きく広がっています。前年度まで定期的に参加していたカンファレンスや、病院での遊びのプログラム（月 1 回開催）は中止となり、医療者や入院中の子どもたちとの直接の接点は激減。そこでオンラインを積極的に活用し医療との関係が途切れないよう医療機関へのアプローチを見直しました。実際、オンラインの活用により、医療機関とのやりとりが以前より容易に、よりタイムリーに行えるようになったことは大きな成果です。

## 2) ケアプランとケア活動の概要

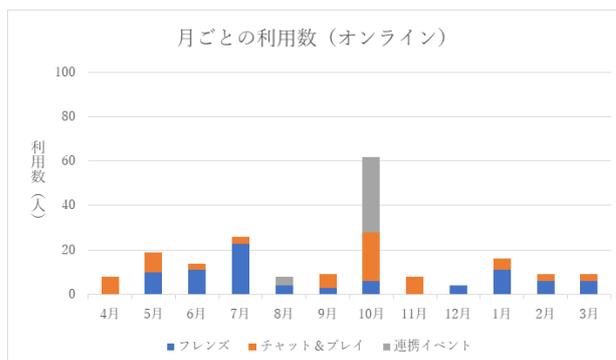
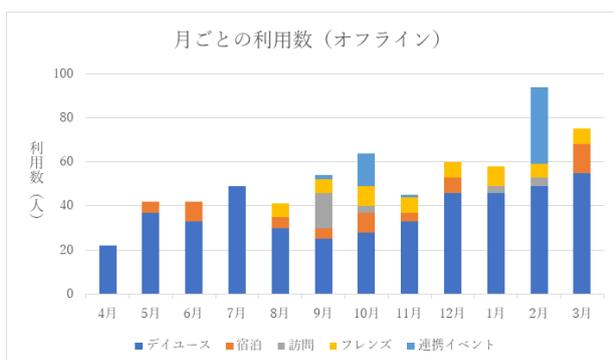
### ①メンバーの利用とその利用区分について

TCH の利用については、メンバー規約を制定し、病状区分と課題のアセスメントをベースにしたケア活動を実施。2020年度は、主に病状区分Ⅰ・Ⅱの子どもにパーソナルケアを提供しました。

Ⅰ	EOL 期※	予後が極めて厳しい	※EOL(End of life)
Ⅱ	急性期／不安定期	予後が明確でないが、非常に不安定な病状・治療中である。または、早期に亡くなる可能性が高い	
Ⅲ	慢性期／安定期	予後予測が困難な疾患・状態だが、現在は身体症状が安定している	

### ③パーソナルケア活動とケアプラン

チルドレンファーストは、ホスピスケアの中で最も大事にしている視点です。ホスピスケアの中で、子どもの声を聴き、子どもの発意を大事にしたケアプランを考えていきます。子どもの状況は、疾患、年齢、家庭環境などから様々です。一人一人の子どもの「やりたい」「実現したい」願いを叶えるために、ホスピスでは様々なケア活動の中で、子どもの願いを一つでも多く実現するための実践を行っています。



### ◆パーソナルケアプログラム

LTC の子どもたちの療養環境はコロナ禍に大きく変化しました。入院中の面会や外出・外泊の制限だけでなく、生活のあらゆるところで閉塞感を覚える日々が続く中、ホスピスを必要とする子どもにとっての時間をどうしたら大事にできるのかを考えて取り組みました。ホスピスの衛生管理をより強化し、最大限の感染対策を講じ安全な環境を整えた上で活動を継続。ホスピスに来るケア活動に加え、新たにオンラインプログラムによって、離れていても関係が途切れないよう、コミュニケーションの方法や遊びを工夫しました。学童以上の子どもとは、オンラインによって入院中や自宅でも会話や遊びを楽しめることが分かり、パーソナルな利用方法が広がりました（オンラインチャット&プレイ）。プログラム全体の利用数としては、ご遺族の来館の機会の減少により、前年よりは少し減少しましたが、「今を大事に生きる必要がある子どもたち」にとって、ホスピスの必要性を強く感じた一年となりました。

### <パーソナルケアプログラム利用者人数比較>

	2019年度	2020年度	前年比
ディユース：ケアメンバー	476	441	93%
ディユース：ビリーブメントメンバー	92	12	13%
ステイ（宿泊）	83	57	69%
ビジット（訪問・お見舞い）	125	45	36%
新：オンラインチャット&プレイ	—	70	—
<b>総利用数</b>	<b>776</b>	<b>625</b>	<b>81%</b>

### ③フレンズアクティビティ（集団活動）の力

子ども同士の時間は、ホスピスでは大事な活動の一つです。コロナの影響により、春から夏にかけて感染拡大を防止する観点から集団活動は全て中止に…。ですが、ホスピスに来る子どもにとって一番不足しているのは同世代の子ども同士の時間です。そこで、安全な環境に配慮しながら、秋以降は未就学児 2～3 組までの集団活動をホスピス内で実施。家族以外の人に会う、子ども同士お互いを意識し合う時間は、コロナの閉塞感を和らげる時間になったようです。またオンラインでのフレンズアクティビティを開始し、学童以上の子どもたちが自宅や入院先から同じ時間を共有し、おしゃべりやゲーム、クイズ大会など、様々な遊びを楽しみました。「離れていても近くにいる」そんな感覚が、孤独感を減らし仲間を感じられる時間につながりました。

アクティビティ・プログラム名	開催日	子ども	大人
幼児フレンズ：	8/6-3/16(16回)	29名	28名
オンラインフレンズ：学童女子の会	5/14-3/20 (22回)	79名	5名
メンバーイベント名	開催日	子ども	大人
雪企画	2/27	17名	18名

### 3) ビリーブメントケア（ご遺族とのつながり）に関する取り組み

#### □TCHのビリーブメントケア（遺族ケア）として

ご遺族の深い悲しみに寄り添い続ける、思い出の場所としてあり続けることが、TCHの取り組みの本質的な意味の一つです。私たちが「あり続けること」「思い続けること」「ともに作ること」—この3つの視点を大事にしています。お子さんを亡くされたご遺族は3組おられました。その子にとっての「今しかない時間」をご家族と共に最期まで支えることができました。これからも、病気の子どもの尊厳を守ろうとする社会づくりに、ともに力を合わせ歩んでいけたら...と願っています。

## 2・広場活動としての取り組み（あそび創造広場活動の推進）

（公益目的事業 1-(2)-1：小児緩和ケアの普及啓発事業）

TCHがある「あそび創造広場」は、子どもたちの創造性と協働性を育む、遊びと憩いの場です。子どもを心から大切に想う、ゆったりとした広場でありたいと考え、地域に開いた様々な活動を実施しました。

### 1) 各種地域向けの取り組み

#### ①地域イベントとしての取り組み

□あそび創造広場の原っぱエリアを訪れる、子どもや家族連れが自然と増えた一年でした。多くの地域交流イベントをYouTube配信やオンラインでの参加に切り替えましたが、広場として地域に開き続けていたことで、より地域との接点や自然な交流が生まれるようになりました。TCHが取り組む社会課題の周知・啓発が、広場の開放と広場連携の活動を通じて広がっています。

オンラインイベント名	開催日	子ども	大人
病気のこどもときょうだいをもつ親向け講座	8/23	1名	5名
アドベンチャーワールド, ワクワクスマイルデイ	10/18	20名	14名
スタッフ全力チャレンジ! (youtube live)	12/20	視聴数 29	
3Dマップお披露目会	1/24	0名	26名
みんな、きいて。つるみのこと(youtube live)	2/21	視聴数 41	
CHOBOちゃんオンライン	3/21	0名	6名
院内プログラム（オンラインゲーム）※大阪市立総合医療C	11/5	8名	4名
サポーターズカフェ（オンライン）	5/24, 28, 8/9	—	19名

オフラインイベント名			
春の THANKS DAY	5/17	中止	中止
原っぱで巨大虫かご	9/20	14名	14名
ファミリーフォト撮影会	11/8	7名	10名
ふらっとカフェ	毎週金曜日午前	中止	中止
見学・視察	下半期月曜に個別対応	0名	56名

## ②「広場」連携プログラム

子どもたちの創造性と協働性を育むことを目的とした様々な企画を外部より募集し、セミパブリックエリア（つるみカフェ、おおきな部屋、みんなの中庭）を利用できるプログラムです。今年度は COVI-D19 の流行により、7月までのプログラムを全て中止とさせていただきます。

これまでのプログラム利用要件に加えて、マスクの着用、ソーシャルディスタンス、感染者が出た時の連絡方法などの利用時の注意点の追加、使用エリア・利用人数の縮小などの対策を講じて、8月より再開しました。再開後は、大阪府の感染状況を見ながら団体ともご相談の上、開催を決定してきました。2019年度までホスピスのメンバーとして利用されていたお母さんが立ち上げた団体によるプログラムが開催されたり、ホスピスを利用している子どもたちが、草花あそびの体験を家族揃って楽しむ事ができる機会となりました。

### <2020年度「広場」連携プログラム エントリー&利用実績一覧>

主催団体名	開催日	参加者数
つるみママ会	4月-9月 6回 中止	—
心疾患児の遊び広場ここいろ	8月-9月 2回 中止	—
ココチイ	4月-9月 6回 中止	—
ビリーブメントケアチームビリーブ	4月-7月 4回 中止 9/6 10/4, 11/1 12月-3月 4回 中止	— 12名 17名 —
BONBON CANDY-にじいろじかん-	9月 中止 12/6 中止 3/7	— 16名
(一社)日本ベビーウェアリング協会	11/20,1/8,2/7,3/5	18名

## 2) 原っぱ活動としての取り組み

園路ができて2年目となり、芝生と草むらでの遊び方と過ごし方が徐々に定着してきました。スタッフに声をかけてくれる親子やいろんな話をしてくれる子どもたちが多くなり、少しずつこどもホスピスが地域に溶け込んでいることを感じます。

平日午前には赤ちゃんが園路や芝生をお散歩、夕方は幼児たちが園路でかけっこや草むら探検、土日は小学生が虫とりや鬼ごっこ、親子でレジャーシートを広げてピクニックがあそび創造広場の定番メニューになってきました。スタッフが水やりや花壇の手入れをしていると「この中って病気の子がいるんやんな」「なんのおもちゃあるん？」とホスピスのことを訊いてきます。地域の子どもたちが、メンバーの子どもたちに広場の楽しみ方を教えてくれる虫や草花に詳しいお友達（存在）になりつつあります。



### 3・広報・ファンドレイジングの取り組み

(公益目的事業 1-(2)-2&3：小児緩和ケアの普及啓発事業&収益事業 1)

フリースタANDINGな立ち位置から、ともに子どもの尊厳を守ろうとする地域社会づくりを、丁寧に、かつ、広く届けていくことが、TCHのファンドレイジング活動の軸になっています。しかしながら、コロナ禍であらゆるイベントや地域の活動が中止になったり制限を受けた2020年度は、例年とは違うファンドレイジングの活動を展開する必要に迫られた1年になりました。様々な試行錯誤と各支援者のご協力の結果、ホスピス活動の広報手法や支援活動のバリエーションを広げる機会になりました。

#### 1) メディアや学会等における広報・発表、自主的な発信の活動

##### ①メディア系の取り組みとして

2020年度は、コロナ禍の中における病気の子どもの状況など、NHKニュース番組で取り上げられたり、全国での子どもホスピスの設立の動きの反響もあって、TCHへの関心がぐっと高まった面がありました。また、開設初期より当法人理事やスタッフ、そしてメンバーに継続的なインタビュー取材を重ね上梓された『こどもホスピスの奇跡』(石井光太著)によって私たちの活動が著作を通じて知られるところとなり、一時寄付やマンスリーサポーターも増加。このようにテレビ、雑誌など各メディアに取り上げられる機会が増えた1年でした(計15回)。



##### ②自主映像の制作と発信の活動

「#今しかできない」プロジェクトと銘打ったキャンペーン映像(約3分)を制作し、後述のクラウドファンディング募金活動の広報媒体として発信を展開しました。



##### ③医療関係者やホスピス関係者への広報および発表

2020年度は、医療関係に向けた発表の機会はありませんでしたが、オンラインで開催された全国のこどもホスピスのネットワーク関連の機会にゼネラルマネージャーが登壇しTCHの取り組みをお伝えしました。

- ・横浜こどもホスピスプロジェクト主催「第3回世界こどもホスピスフォーラム in Yokohama」(2/14)
- ・福岡こどもホスピスプロジェクト主催「全国こどもホスピスサミット in 福岡」(2/20)

#### 2) ファンドレイジングの活動

公益法人化2年目の2020年度は、大阪マラソンやオリジナルのチャリティイベントを中止することになり、当初の財政は見通しの立てづらく危機的な状況でした。しかし、これまでつながりができた支援者の皆様のご協力をいただいたり、新しいPR方法で新規の人たちにつながるファンドレイジング活動に取り組むことができました。様々なご支援いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

##### ①継続的な寄付者の拡大の促進【継続寄付】

積極的な広報活動を展開するのが難しい1年でしたが、上記メディアの反響により、TCHマンスリーサポーター数が拡大しました。今後もこのサポーターを増やしていきたいと思えます。また、今年度より、地域の企業や事業者の方に支えてもらうホスピスを目指し「企業・事業主スポンサー」の公募を開始。多くの法人・事業主様より温かいご支援いただきました。

- マンスリーサポーター：計269名・団体(90名・団体純増※アニュアル除く)
- 企業・事業主スポンサー(一口10万の法人支援)：計16団体(合計38口)

##### ②一時寄付収入の拡大

□コロナ禍における、緊急支援アピールによるご支援【プロジェクト寄付】

チャリティイベントの中止が相次いだため、財政危機を乗り切るために、緊急支援スポンサー、サポーターを募集



に、このアピールに対して、数多くのご支援をいただきました。

- 緊急支援サポーター：合計 100 名・団体（3 万円×195 口：585 万円）
- 緊急スポンサー（法人・事業主）：計 4 団体・名（合計 600 万円）

□「#今しかできない」プロジェクト：キャンペーンチャリティの展開

TCH 初のクラウドファンディングによるチャリティ活動として「#今しかできない」プロジェクトを展開。キャンペーン実施にあたっては、(株)Nue のクリエイターの方々のご協力を得て、PR 活動や活動結果をまとめた「できたレポート」（寄付リターンとして）を発行しました。

- 「#今しかできない」プロジェクト：508 名のご支援（合計 625 万円）



□個人や団体自身からの一時的なご寄付【一時寄付（個人・法人）】

メディア広報や関係者のつながりから、TCH の取り組みに賛同いただき一時寄付という形で 2300 万円を超えるご支援をいただきました。また、団体や個人有志によりチャリティ企画を実施し募金を集めたり、イベント売上の一部をご寄付いただく「チャリティプロデューサー」活動は中止が相次ぎましたが、様々な機会を捉えて温かい募金活動を展開していただきました。

□各種寄付プログラムによる収入の拡充【プログラム寄付】

- ・社会貢献型自動販売機によるご寄付 14 台の設置のご協力をいただいています。
- ・Yahoo!ネット募金や Softbank つながる募金のネット募金を通じたご支援をいただきました。

③地域社会への発信とオリジナルのチャリティイベントの開催。

□オリジナルのチャリティイベントの開発とその開催

2020 年度は、主催によるファンドレイジングイベントはすべて中止になりました。そこで、オンラインによる「緊急支援サポーターズカフェ」（支援者向け説明会）を開催し、TCH の運営に関心のある支援者とつながりを深める機会を持ちました。

3) 新規財源の獲得のための活動：各種助成金の申請と財源拡大

下記助成金をいただき、新しい活動の環境整備や様々な取り組みを推進することができました。

- ・TSURUMI 子どもホスピスにおける運営体制の強化（公益財団法人日本財団）
- ・新型コロナウイルス感染症：拡大防止活動基金（運営事務局：公益財団法人東京コミュニティ財団）
- ・大和ハウスグループエンドレス募金プログラム（大和ハウス工業株式会社）

4) 事業収入による財源の獲得（収益事業 1：キャット端末設置に関する事業）

各店舗等にキャット端末を設置する事業収益として、440 万円を得ることができました。

5) 寄贈や企画協力によるご支援

企業・団体や個人の方より、様々な企画の協力や現物のご寄付を頂戴しました。また、私たちホスピスの子どもたちが遊んだり使ったりする材料や遊具など、希望の品をウィッシュリストに掲載し、そのご寄贈（55 件）をいただきました。

6) 寄付型運営のための組織基盤の強化

2019 年 9 月に大阪府から公益社団法人としての認定を受けることができ、2020 年度は公益目的事業を担う運営の基盤を整える 1 年でした。寄付で運営する子どもホスピスとして、財政基盤をより固め今回の法人基盤を生かしたチャリティ活動の強化を図っていくとともにガバナンス強化にも取り組んでいく所存です。

#### 4・ホスピスの活動を支える人材と組織基盤の強化活動

あらゆる子どもたちにとって、多様な人との出会いは大事な機会です。そして、個々の思いや互いの弱さを補いあい、運営面をより円滑に進めていくためにも、TCH の活動にボランティアの協力は欠かせません。しかし、2020 年度は、ボランティア活動もかなり制約された中で進めざるを得ませんでした。

##### 1) TCH におけるスタッフ人材育成とボランティアマネジメント

(公益目的事業 1-(3)：ホスピススタッフ&ボランティア人材の養成やネットワーキング事業)

###### ①ボランティアマネジメントの体系と活動の概要

○キャストボランティア...年度ごとに定めた募集または更新手続きを実施し、活動種別はイベントとハウスキープに分かれ、計 30 名にご協力いただきました。コロナによって 2020 年度は活動停止と再開を繰り返し、再開したとしてもイベント人数の制限や他府県への移動自粛それぞれに所属先があり、キャストボランティアの活動延べ人数は合計 40 名と昨年の 6 分の 1 以下になりました。

○単発ボランティア：企業団体連携を中心にプログラムやイベントに伴うボランティアです。今年度はオンラインでの取り組みにもご協力いただく機会が増えました。

※2021 年度の新しいボランティア？のかたち「なかあーま(\*´▽`\*)」

2021 年度でキャストボランティア制度を廃止し、病気の子どものその家族が暮らしやすい社会を拡張するすべての仲間（なかあーま(\*´▽`\*)）としてつながり、ホスピス活動を進める予定です。キャストボランティア・単発ボランティア・元メンバーに加えて「楽しみで繋がる」様々な人達を想定しています。

###### ②子どもホスピススタッフの交流と育成



TSURUMI こどもホスピス (TCH) は、こどもホスピスのケア人材の養成の一環として、横浜こどもホスピスプロジェクトのスタッフとともに、実地型の研修（オンライン研修 1 日&実地研修 2 日）を行ないました。ここでは、私たちの歩みの 5 年間の試行錯誤や成果を分かち合うとともに、全国に広がる方々との交流を通じて、今後のホスピスの在り方を考える貴重な機会になりました。

##### 2) 組織運営の強化と財政面について

###### ①法人運営（ガバナンス）の整備

###### □総会の開催

年一度の定時総会は、会員全員による決議の省略により、事業報告・決算、事業計画案、定款変更案等について協議し、承認しました。また昨年度の決算報告で軽微な数値のミスがあったため、その報告の承認のための臨時総会において会員全員の同意による決議の省略より承認しました。

###### □理事会の開催

2020 年度末で開設から丸 5 年を迎えた TSURUMI こどもホスピス。この 5 年間の取り組みを総括し、コロナ禍で様々な活動の見直しを踏まえ、次なる 5 年の中期を見通す中期ビジョンを協議し「TCH 未来計画」構想案を策定。次年度以降は、本ビジョンに沿った子どもホスピスの展開を進めていきます。

開催日	主な審議事項	出席者数
5/18	19 年度決算報告、20 年度計画・予算変更、理事監事改選、メンバー規約改訂、アドバイザーの承認、利用者承認委員の一部交替	7 名
6/6	代表理事および業務執行理事の選任	7 名
9/17	上半期報告、下半期計画と補正予算、就業規則の改訂	7 名
1/21	昨年度決算修正と臨時総会について、TCH 未来計画構想、規程の策定・改訂	5 名
3/24	21 年度計画・予算案、公益目的保有財産の積立て、委員アドバイザーの推選、ガバナン	7 名

ス強化計画案と規約の改訂、アルバイト就業規則の策定

(2020 年度理事・監事) 代表理事 高場秀樹 副理事長 原 純一 常務理事 多田羅竜平  
理事 安道照子 坂下裕子 水谷 綾 山縣敦彦 監事 奥谷敏之

□利用者承認委員会の開催 (公益目的事業 1-(1))

TSURUMI こどもホスピス (TCH) は、TCH 利用を希望するご家族からのエントリー後、利用者承認委員会での承認を得た方にご利用いただきメンバーになる仕組みになっています。2020 年度は、利用者承認委員会を 2 回開催しました。

回	開催日	主な審議事項	出席者数
第 1 回	9/4	ケア概況報告、メンバー承認手続き	5 名
第 2 回	3/5	ケア活動の概況報告、次年度ケアプラン説明、メンバー承認手続き	5 名

(2020 年度 利用者承認委員一覧 ※2020 年度末のご所属・役職)

囀府寺 美 チャイルド・ケモ・サポート基金事務局長／ 二宮 英一 にのみやこどもクリニック院長  
丸 光恵 甲南女子大学国際看護開発学領域 教授／ 矢野 朋子 佛教大学 保健医療技術学部看護学科助教  
和田 浩 大阪発達総合療育センター 小児科部長・訪問診療科部長

□TCH の取り組みへの助言、応援協力

TCH アドバイザー (ケア活動の助言等) 副島賢和 (昭和大学教授)、清田悠代 (NPO 法人しぶたね)

②スタッフ体制の強化

2020 年度は、以下のマネージャー体制のもと、常勤・非常勤のスタッフを配置し、運営を推進しました。

□TCH スタッフ

・ゼネラルマネージャー (全体統括) 水谷 綾 ・アシスタントケアマネージャー 市川雅子 (看護師)  
・ホスピススタッフ 饗庭真祐美 (保育士)、青儀祐斗 (理学療法士)、西出由実 (看護師)、古本愛貴子 (看護師)  
・検証スタッフ 辻ゆきえ ・事務・ハウスキープスタッフ 岩井弥生、畑 亜紀、小林喜美子

③財政面の動向と次にむけて

2020 年度は、コロナ禍によって様々なファンドレイジング計画の見直しを余儀なくされ、厳しい予算計画からスタートしましたが、新しいファンドレイジング活動の展開や、高額寄付をいただくことができ、当初の予算計画を以上の寄付収入を得ることができました。

<2020 年度収支実績>

収入	(万円)	支出	(万円)
会費収入	17	人件費	3,035
継続寄付収入	1,110	事業・管理費	1,724
一時寄付収入	2,375	賃借料、租税公課	450
プログラム寄付収入	101	次期指定正味財産振替 (指定)	2,685
プロジェクト寄付収入① (一般)	625	当期指定正味財産解除 (指定)	500
プロジェクト寄付収入② (指定)	3,185	次期繰越額	171
イベント寄付収入	0		
助成金収入	690		
事業収入	443		
その他収入	19		
合計	8,565	合計	8,565